

韓国の野菜と米を集めて

財団法人・日本農村医学会富山県支部

富山県農村医学研究所

イタイイタイ病が神岡鉱山の鉱毒であるという、裁判の決定から、各種の研究報告があったが、一応の原因論は鉱毒、カドミウムであるという事になった。然し研究は必ずしも終わった訳ではなく、更に研究の必要性が重大となった。私達はカドミウムがイタイイタイ病の主犯者とすれば之は大変な事である。日本のように工業国で、中でも富山県のように大きな鉱脈を持っている処ではより更に重大な事である。カドミウムは富山県の各地の土壤中に見られ、しかも米は勿論、野菜にも含有されている筈である。布施川の上流には露出された岩石から22ppmのカドミウムが流水にさらされている。又、砺波市安川地区からの昨年度産米が東京都衛研から0.42ppmと言われ、本県で再分析の結果、0.38ppmであったと修正されている。

私達はこの事から工業の未開発国と、鉱物資源の全くない国の米や野菜を入手してこれ等の分析の結果を見たいと常々念願していた。私達はたまたま其の機会を得て、まず手始めとして最も近い工業の未開発国でしかも鉱物資源の最も少ない韓国を選んでサンプリングに出かけた。飛行機は広い海原をいつまでも飛んでいたが、其のうち雲の中に入った。出発してから一時間半は経っていた。時計を見おわって何気なく窓を眺めていると、目の中に大きな陸地が見え、赤茶色の肌の山山がみえた。思わず「韓国だ」と叫んだ。同僚の方々も一斉に窓外を眺めた。山々の肌が赤茶色に見えるのには一種の恐ろしさを感じた。山のふもとに丸い土まんじゅうが所々に見えた。

だれかが「あれは土葬の跡ですよ」と説明して居た。飛行機の音が少し変わった。さぞかし高度を下げたのであろう。何とはなしに気味が悪い感じである。下を眺めていると遙か山の向こうに大きな都市が見えた。眼下の民家が小さく見える。スチュワーデスが「煙草を止めて下さい」「バンドを締めて下さい」と指示、前の赤いランプもこれを示した。いよいよソウルである。金浦空港である。見る見る眼下に大きな飛行場が開け、うす気味悪い軍用機が並んでいるのが見えた。機内の窓から見ていると翼に韓国のマークがはっきり見える。暫くして飛行機は滑るようにして滑走路に降りた。しかし降りて見ると富山空港より少し大きい感じであり、一種の好奇心と羽田空港の比較観みたいなものを感じた。

私達は金浦空港に降り立ち韓国の土を初めて踏んで見た。乗客の列は入国者の入口へと飲みこまれるようになって行った。所持品検査を終え、車でソウルへと向かった。大きな直線コースの飛行機の離着陸が充分出来るような道路で、その辺だけを見ると日本以上の道路整備の状態であると思った。約40分程でホテルに到着した。ホテルも中々立派である。車を降りて運賃の支払いを終えると、運転手は何か言い出した。言葉がわからないので一同、とまどっていたら、其のうちにボーイがやって来て何か話を始めた。全く喧嘩のようである。ボーイの話によると「チップを呉れ」と言うのだそうです。ボーイは「支払う必要がない」と言う事で、一同はホテルに入った。中々立派なホテルである。一応部屋に落着い

たので暫く休み、ソウル市内へ散歩に出た。まず驚いたのは小さな学童が我々に向かって「サービス、サービス」と言いながら横に来てチューインガムを差し出す。断わると洋服のポケットへ投げ込むのに後についてくる。次から次から学童がついてくる。そうして「100円呉れ」だんだん値上げて「200円呉れ」と言い出す。「持って帰れ」と差し出すがチューインガムは受取らない。ついに投げつけるとそれを拾い上げてすごすごと帰って行く。学童達はよく路上で喧嘩を始めている。半島 arcade の近くまで歩いた。「半島 arcade はこの辺だろう」と話していると32~33才位の女の人が立止まって「半島 arcade の案内しましょうか」と日本語でいって来た。服装もきちんとしているし、かなり目や鼻、口のバランスもとれている女性であった。一同鼻の下を少し長くして、「それでは案内して下さい」と言うと、彼女はニコニコしながら案内してくれた。「私は半島 arcade のものですから明日ホテルにお迎えに参りますから半島 arcade に来て下さい」と親切にしてくれたので一同鼻下長振りを発揮して夕食を一緒に食べることにして彼女にその場所を教えてもらった。朝鮮料理の本場物を一つと言うと、出してくれたものは辛いものとニンニクづくめの料理であった。

明朝、通訳一人頼んで郊外へ農作物のサンプリングに出かけた。タクシーを一台頼み、どの方面かはっきりしませんが東の方へ向けて走った。「最も工業及び鉱山のない方向に行ってくれ」と頼むと通訳は「心得ました」と言い乍ら運転手に指示した。車は80km/hのスピードで走り続けた。山は赤い肌を見せている、その山の間を縫うように走り続け、約1時間位走ったところは農家7~8軒程の集落である。通訳は運転手に停車を命じた。そうして路傍に居る人々に何かを尋ねたが何を話しているのか全然判らない。車に通訳が乗り込んでから尋ねると村長の家を探ねたのだと

言う。それでまた走りだし、暫くして集落のあるところに到着した。車を降りて少し歩くと下の図のような平屋の瓦葺の家があった。



その場所は京畿道華城郡、半月面乾々りの里である。3ヶ所の集落を回ってそれぞれ見学した。どの家庭も小さい子ども達が6~7人いる、約10軒位の集落である。男達は凡て草刈鎌を手に裸足で田の中に数人ずつ見える。稲刈りである。女の方は門の内側に居て、とうがらしの乾燥したものを手でもみ、粉にしている。一見のんびりした風景である。子どもを背負っている女の人の所へ立寄って「坊や今日は」と、日本語で話して見たが通じない。「ヨボセオー」と言うと子どもも女の人にもにっこり笑った。頭を撫でようとして手をあてると、非常に高い熱が出ている。私の手の感じから言うと40℃はあるようだった。「高い熱で外気にさらすのは良くないですよ」と言うと、母らしき人は「こんなことは日常あるのでたいしたことはないです。子どもが生まれてしょうがないのです」と語してくれる。ここでは一般に7~8人から10人は子どもが生まれるのが普通で、死ぬのがその半分位で4~5人になってよいことになるという話だ。

今一つ驚いたことは、農作物の肥料は人糞を主としていて殆んど未だ化学肥料が使われていないことである。従ってチストマ患者が多いことである。又、住宅の構造と過労からくる結核患者も非常に多いとのことであり、日本より30年位は充分遅れている感じである。

私はそのうちのある一軒の家で昼食を御馳走になることになった。「肉は何がよいです

か、牛肉と豚肉と鶏がある」と言う、よく聞くと牛肉は相当前に殺したもので、豚肉はいつ殺したかわからないらしいので「鶏にしてください」と言うのと、鶏は今殺して来ますと言う訳です。後でわかったが、李熙貞と言う奥さんで、手早く鶏の肉を後の方から両手にぶら下げて来た。出てくる料理は鶏肉にニンニクととうがらしの入った料理である。米の中に麦が入り、戦時中の日本の食事のようで、それに濁酒（ドロク）が出てきた。漬物はさすが本場の朝鮮漬であった。

韓国の農家の実情や農家の婦人の生活を聴き、日本の国の良さを今更のように痛感した。検体を採集するにあたり、よくいいかげんな事があつたらしく韓国などの低開発国では、「採集して上げましょう」などの口に乘るとかなりいい加減なものなので、是非、自分の足で採集すべきであることがよくわかりました。それは、韓国の婦人も教えてくれた。通訳や商人も適当な言動をし、その時よしの話をするこもよく判りました。やはり、農民が一番正直者であることも今更のように感じました。そして農民が一番親切で、貧乏であってもそれを分け合って食べる気持をもっているのは農民である。そうすればこそ農業と言う食物を作る職業に従事出来るのであると思いました。

ただこのやさしい気持の農民から過労をなくし、豊かな教育を授けてやれば、もっと幸福な生活を送れるであろう。日本の農民は勿論、世界、特にアジアの農民たちの幸福を願わずにはいられなかった。

最後に挨拶をして別れ、再びソウルに帰った。同僚の中には韓国の青磁の焼物を求めて来た人達にいろいろ見せてもらったが、その品物についての良否は一向にわからず、猫に小判とはこのことである。

日本語のわからない者と朝鮮語が根っからわからないものが文字で話し合ったことを思えば非常に不思議が気がする。やはり、東

洋人であることをはっきり認識することが出来たと思います。その後、私のもとへ手紙を送って下さったので茲にその紹介をします。内容的に判読の部分がありますが、原文のまま記載します。

先生

御手紙有かたく御奉読致しました。先生の研究の志へ尊敬致しえませぬ。せつかく玄海灘を渡り韓国へいらっしゃっての研究の資料を色々とおためになつたら幸いと思ひます。

いつれの人間の世界の幸福を祈りつつ、仁術への研究は何と其の価値があると思ひます。せつかく韓国の農村へいらっしゃつた先生に御粗末な御食事を上げた、此の身に過ぐる御手紙くださつて、なんと返事しようをえませぬ。御頼み一つ韓国の素末な農村の御食事色々とお了解致しください……。突然の御客様の接待に失礼しました。

主人の健康に相当な親心を下さつた先生の心付け有難う御座います。やっぱし先生のお見えの通り、主人は相当な弱体で、農村の生産労働力が相当無理がかかつて弱体ですが、色々がまんしつつ、それに加わる生活の妙とて無理が重なつて、30年の生活が現今のようになったのです。先生、其の生活は御想像の通りでしょう。これからは主人の健康の為に栄養の補充に相当に努力し、其の日其の日生活して行きます。

又韓国に居らっしゃる御機会が有るなら、御来訪の榮を是非得たく、くださつたら有難く思ひます。色々有難う御座いました。28年ぶりに書く日本語なんですから、御文のすじや、表現に失礼なお言葉、お許し下さることを御念じます。ではいずれ又。

左様なら

1973. 12. 17

韓国の農村のすみで

東 秀 母 李 熙貞 拝